

AMST 第七版 正誤表 (2015 年 10 月 29 日案内)

1. AMST-001

- (1) 5.5.3 浸出用液の調製 2) 0.04 mol/L 炭酸水素ナトリウム溶液 (P.4)

誤	炭酸水素ナトリウム <u>3.3</u> g を精製水に溶かして 1 L としたものの。
正	炭酸水素ナトリウム <u>3.36</u> g を精製水に溶かして 1 L としたものの。

2. AMST-002

- (1) 5.4.3 浸出用液の調製 2) 0.04 mol/L 炭酸水素ナトリウム溶液 (P.26)

誤	炭酸水素ナトリウム <u>3.3</u> g を精製水に溶かして 1 L としたものの。
正	炭酸水素ナトリウム <u>3.36</u> g を精製水に溶かして 1 L としたものの。

3. AMST-003

- (1) 5.4.3 浸出用液の調製 2) 0.04 mol/L 炭酸水素ナトリウム溶液 (P.48)

誤	炭酸水素ナトリウム <u>3.3</u> g を精製水に溶かして 1 L としたものの。
正	炭酸水素ナトリウム <u>3.36</u> g を精製水に溶かして 1 L としたものの。

4. AMST-004

- (1) 5.4.3 浸出用液の調製 2) 0.04 mol/L 炭酸水素ナトリウム溶液 (P.67)

誤	炭酸水素ナトリウム <u>3.3</u> g を精製水に溶かして 1 L としたものの。
正	炭酸水素ナトリウム <u>3.36</u> g を精製水に溶かして 1 L としたものの。

AMST 第七版 正誤表 (2015年3月31日案内)

1. AMST-001

(1) 5.2.2 操作及び測定方法 (P.3)

誤	$\text{ろ過水量 (m}^3/\text{d)} = \frac{\text{膜ろ過流束 (m}^3/(\text{m}^2 \cdot \text{d}))}{\text{膜面積 (m}^2) \times \text{膜差圧 (kPa)}} \times 100 (\text{kPa}) \times \text{温度補正係数}^{**2)}$
正	$\text{膜ろ過流束 (m}^3/(\text{m}^2 \cdot \text{d})) = \frac{\text{ろ過水量 (m}^3/\text{d)}}{\text{膜面積 (m}^2) \times \text{膜差圧 (kPa)}} \times 100 (\text{kPa}) \times \text{温度補正係数}^{**2)}$

(2) 表 1-3 非イオン界面活性剤の分析方法 (P.13)

誤	固相抽出ー吸光光度法
正	固相抽出ー吸光光度法又は固相抽出ー高速液体クロマトグラフ法

2. AMST-002

(1) 表 2-4 非イオン界面活性剤の分析方法 (P.32)

誤	固相抽出ー吸光光度法
正	固相抽出ー吸光光度法又は固相抽出ー高速液体クロマトグラフ法

3. AMST-003

(1) 表 3-3 非イオン界面活性剤の分析方法 (P.55)

誤	固相抽出ー吸光光度法
正	固相抽出ー吸光光度法又は固相抽出ー高速液体クロマトグラフ法

4. AMST-004

(1) 5.2.2 操作及び測定方法 (P.66)

誤	$\text{ろ過水量 (m}^3/\text{d)} = \frac{\text{膜ろ過流束 (m}^3/(\text{m}^2 \cdot \text{d}))}{\text{膜面積 (m}^2) \times \text{膜差圧 (kPa)}} \times 100 (\text{kPa}) \times \text{温度補正係数}^{*2)}$
正	$\text{膜ろ過流束 (m}^3/(\text{m}^2 \cdot \text{d})) = \frac{\text{ろ過水量 (m}^3/\text{d)}}{\text{膜面積 (m}^2) \times \text{膜差圧 (kPa)}} \times 100 (\text{kPa}) \times \text{温度補正係数}^{*2)}$

(2) 表 4-3 非イオン界面活性剤の分析方法 (P.75)

誤	固相抽出ー吸光光度法
正	固相抽出ー吸光光度法又は固相抽出ー高速液体クロマトグラフ法

以上